

巻頭言

新しい発想に立って

玉木 正男

ラジウムの発見を報告するキュリー夫妻の論文の発表されたのは、今から丁度百年前、1898年12月26日に発行されたフランスの総合学術雑誌 **Comptes Rendus des Séances de l'Académie des Sciences** であった。その2年前同誌には放射能に関する最初の論文（アンリ・ベクレルの報告）が出たのであるが、これはX線に関するレントゲンの第一報から二ヶ月足らず後であった。ベクレルはソルボンヌ大学の教授であるが、キュリー夫妻は全く学会の新人であった。学会の新人によって放射線学が大きく展開されたのは興味深いことである。

（財団理事、大阪市立大学名誉教授）